

思い出を書くようにと、林千代子様からのお電話。僅か二年の在職でしかなかった私、過日五十年誌の爲の座談会で申上げた事で一応は言いつくしているかと思ひますし、近年そろそろ脳軟化めいて諸事忘れっぽくなつてしまつて、ペン持つ事も殆どなく、お恥しい限りなのでお断り申上げたいのですが、重復はお許し下さい。……思ひ出すままに。

新任の折、二年生担任は奥先生と私、翌年も同じクラスで持上りで、先生には何かと大変お世話様になりました。四十余年をへだてての再会も左程お変わりもなく、さぞ良いお父様とお見受け致しました。

「昔は縁なしメカネでしたね」といわれ、忘れていた昔を思い出しました。

運動会の職員競技で佐々木

恩 師 拜 謁

お裁縫の龜山、太田先生に三針も縫って貰う多賀両先生、お料理の小森先生、私を入れて四人の女先生と只お一人の男先生は音楽の佐々木先生、この五人が雨天体操場兼講堂で、職員の方々多勢の生徒さんの前に並んで立った日／＼忘れられません。思えば半世紀前の出来事、柏木校長先生始め当時の諸先生も、すでに幽明境を異にして呼べど応えては頂けません。が、幸い今尚関市には龜山先生、南宮神社近くには多賀先生も御元気でいらっしゃいます。遠く福岡の地に在られる奥先生には五十年祭の折、クラス会場にて四十数年振りに

太田先生に三針も縫って貰う始末。報せて馳つけた母に泣いてしまった私。寝ている部屋に次々とお見舞下さった生徒さん達、若き日の感激は今も忘れられません。可愛い妹の思わぬ犠牲に怒りの手紙を校長に送った私の兄。学校をやめての最善の看護の甲斐もなく三十の若きなのに、苦しい胃痛で亡くなりました。兄が怒ったも道理男、女両方に分れ双方から走り出した提灯競争、ぶつからぬのが不思議なくらい。私はやはり心稚い少女だったのでしよう、子供のように前も見ず夢中で走ったりして。今も

尚かすかに残る傷あと。自分事ばかり申すようで申しわけないのですが、思い出とはそうしたものと思います。

今から考えますと、丁度今の高校卒と同じ年頃だったわけ。教壇に立つのも何やら面映ゆさ一杯でした。未熟乍ら一生懸命、持てる力全部を出し切ろうとする情熱と申しましようか、若さという事は何とすばらしい、いちらしいものだったか、それゆえにこそ、当時の方々が時折のクラス会におおき下さる有難さ。

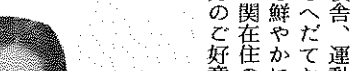
昨年五月、美濃町田通寺近藤善秀師を導師に亡き級友の追悼会に又々おおき頂き、亡き人を偲び、在る方々の幸福

を互に喜び合い、嬉しき一日を持ち得た事は、幹事諸姉の、並々ならぬお骨折と、速しきせうに馳せ参じられた諸姉の、昔を偲び合うやさしさの現れだと思ひます。わけて、深尾さんの病苦を克服されたお話、女学生の後期すでに黒髪を惜し氣もなく捨てて神仏に仕えられる日々を送られ、寒い日冷たい水に凍る手で本堂庫裡の隅々迄雑巾がけをするまでから、の登校だったというマドモアゼル、住職恵秀師の昔のお話、身に浸る思いでした。私の授業の時よく遅刻されて、当惑げにドアをあけて黙って立っていた近藤さんを思い出します。若く生一本だったその頃の私は、理由も知らず只不愉快げにしたのではなかつたから、今、若く、心やりのいたらなかつたであろう昔を思い返しています。

私は道をゆっくりと歩く事が嫌いで、前の人を追い越させせかと歩くのが嬉しい位

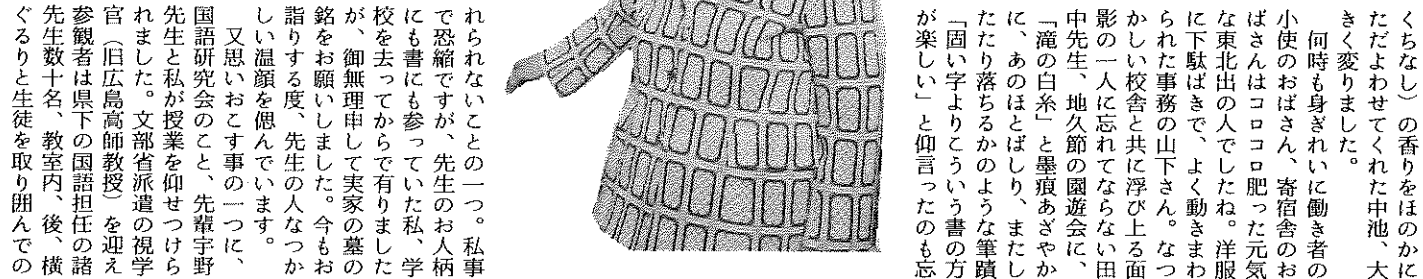
市のお祭りにご案内下さり、その途中、旧校舎を道から眺めよとて廻り道をして下され有難くなつたしく、しみじみと眺めやりましたことでした。校門近くの校長室、文房具等おいでらしたと思う熊田さんのお家等のあった通りは、すっかり変つていたように思いました。

中池へも廻って下さいました。変りましたね、あの辺りは。明るく近代的なレジャーランドとやという風景。徒歩で袴姿の私達を静かに迎えてくれた中池、初夏には梶子（



のあてん坊、舎監の泊りがない日曜日、岐阜旧県庁近くの実家に必ず帰り、月曜日の朝、市内の始発電車で乗るとて家を五時半頃出て電車通乗りに出るのですが、待っても来ない電車にイライラして歩き出し、柳ヶ瀬へ着くと後からの電車が着くという始末。柳ヶ瀬から関迄たっぶり一時間。本通りを真すぐ歩いて左へまがると学校。コの字型の校舎、運動場、テニスコートをへだてた北側の寄宿舎、今も鮮やかに目に浮かびます。

関在住の、柴山の教え子の、方のご好意で、昨年四月美濃



批評授業、赤くなつて緊張気味の私を見て、ニヤニヤしている可愛い一年生の顔を眺めて私は覚悟しました。しかしかた頑張りうと。おかげで何時もより張り切った授業になりました、後で視学官からお賞めの言葉を受けたのも、可愛いいい言葉を生徒さん等の懸命の協力のおかげこそ、自画自賛お許しを。

テニス優勝の日は柏木校長に従つて、私も応援にかけつけました。天池さん等の陽にやけたお顔、元気だった日野つたさん等、惜しい方達のお顔も目に浮びます。

暑い夏の日だったと思いますが関町をつと東にはずれた田んぼ道迄出向いて、飛騨方面からお帰りの秩父宮をお出迎へした日のこと。思いがけない女生生の歓迎をととても嬉しいと仰言るかのように、自動車から丁寧な会釈をされたりお顔が印象深く心に残つておりました。また多賀先生と連れ立つて家庭訪問にも歩きまわした。預る外舎の生徒さんを連れて、高野、加藤兩先生をお訪ねし、御一緒に津保川の川螢狩りした日。今は何処の川も汚れて螢も少なくなったようですが。

美しい高野先生が校長に呼びつけられ、よくお似合いのメリンスの花柄が派手すぎるのと叱られて、涙こぼしてらした。お正月だったと思ひますが、黒紋付の上に紫の絵羽織を着て出かけた私に、やはり目立ちすぎるよとの注意今の若い方達にはよく理解出来るい程、あの頃の先生という立場は型にはめられた窮屈さでした。柏木校長は又特にとかまかい事によく気がついて

うるさ型（失礼）であつたようです。でも一面文学の徒であられた師は、奥様、多賀先生、私の友人（女学生三年生迄先生宅に寄宿してゐた人）私を連れて美濃町から当時は大牧であつた金五円也をはたいて、タクシーで大矢田の紅葉狩に案内して下さいました。いくつかのお歌が生まれました。当時の校友誌が手元になく残念ですが、絃歌さぎめくのを嫌に思はれての一首があつたと思います。帰りは歩きおとして、途中松森でしたか線路の上をビクビク冷や冷やし乍ら歩きました。この校友誌は生徒さん等の力作が沢山のせられた記憶があります。

僅か二年間ながら、思い出は尽きません。思えば当時の愛らしかった生徒さん達は私と幾つも違はず、今では立派な社会人良き妻、母となられ、お祖母ちゃんまの境涯に落付きを見せていらつしやる姿は、今なお子供にも笑われる程心優しい私などを遙かにのり越えられた立派さ。嬉しいことです。幼い頃預かった子供供に氣をとられて、無為に過ぎた日々は今更とり返しはつきませんが、今なお「先生」と呼んで下さる皆様、有難いことです。わけて加藤銅様、山田朝子さんは、私にとっては肉親とも言える最も身近な友人であり生きる道の師であるとも思っております。岐阜市民病院総婦長の稲葉さん、四年卒業を待たず日赤に入られた由ですが、卒業生として立派なお一人と思われまします。それぞれに立派な生き方をなさっていられる皆様のお話を、何時の日か又お聞きしたいものです。

御校の益々の御発展と諸先生同窓の皆様のお多幸を心から祈あけます。

たのしい集い

高女十六回卒 脇野すが子

去る一月二十五日、美濃加茂市のはずれ、木曾川畔の松風閣、明るく笑ひの射す大広間には賑やかな笑い声が溢れていました。二十七名の中婆さんが、女学生気分でピーチクパチクしゃべり、笑い、唄い、クラス会の一ときを思いっきり楽しんでいるのです。指折り数えたクラス会……途中で歌詞があやしくなり、こちらを向いて、「とうさあんにかしら?」、私「いや、あかさあんじゃなかった?」、彼女「あ、そうそう、かあさあんに……」、パチパチパチ、すぐに私、内心で「うーん、やつぱりとうさんだったかしら?」ああ憎らしい三十数年の歳

あやしげな男装で愉快的踊り

同窓生寄稿



合同同窓会のこと

高女十二回卒 原 冨美

一度をちらでやらないかとの呼びかけで、今度の会合が実現したのですが、「こんなに大勢のご出席をいただいたのは、皆様のご協力のおかげです」と、開会の挨拶の中で、社交辞令ではなく、心からの感謝のことが私の口をついて出ました。

宴もたけなわとなれば、歌や詩吟やお国自慢の民謡など次から次へ隠し芸がとび出しす。かつてのブリマドンナ百合子さんが、みんなにせがまれてやおら立ちあがり、女学校時代の懐しい独唱曲を、今も変らぬ美声で歌いました。

昭和五十年弥生三月も終りに近い日、久しぶりの合同同窓会に出席しました。私達二十二回生は、第二次世界大戦の折に、学徒動員で、四年生の五月より軍需工場へ、ペンをハンマーに替えて、お国のために一生懸命働きました。

終戦の日が卒業式でした。尊い人生のうちで、最も大切な女学生生活、最後の仕上げをする四年生、充実しているべきであるのに、何か今思うとそれは又、よい経験でもあったと云えますが、本当にきびしい、私達の青春時代でした。修学旅行も、運動会も、アル

バムも、なにもありません。形に現われた記念の品はなにもなくとも、心の中に刻まれた二年半の工場生活で得たものは、助けあひの生活という大切なことでした。又、心を一つに汗を流し、勤労の尊さを学ばせていただけたという良いこともあります。平凡に終らなかつた、貴重な体験とも云えることでしよう。

そして三十年、もう苦しかったあの戦いも、遠いものになりました。しかし、動員学徒での生活は、決して忘れることはできません。

昭和三十八年二月、共に勤

第二回目は月末のせいもあってか、出席の人は少なかつたのですが、それでも二十八名の同窓生が、中村保先生をまじえ、武蔵中、武儀高女の合同同窓会では、和氣あいあいと子供や初孫の話しに半日を楽しく過ごしました。かつての紅顔の少年少女も、今は髪に白いものが、チラホラとあつて、過ぎし年月を思わせました。

又いつの日にか、合同同窓会に出席し、今の平和をよろこびあいたいと思いつつ、帰路につきました。

懐かしい先生を囲んで

高女二十四回卒 長屋より子（旧姓船戸）

激動の中で、の学生時代。決して楽しい生活ではなかったけれど、思えば懐しい心の故郷です。武儀高女を巣立って早や二十九年の歳月が流れ去りました。

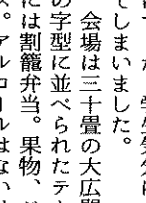
昨年四月、学校名も改った関高校桜ヶ丘会館での「高女卒二十四回生同窓会」、お懐しい先生方九名。

の優しい瞳。
国語の菊地先生は高崎に
住い……。夢見る乙女。遙か
彼方に見線を投げれば、今日
も浮んだ又一句。夕去れば
恵那の頂より見えて 果ては
知られず澄める西空

中津川からは体育の田口先生、モールス信号「トツツー」、手旗信号「アイウエ

オ」体育ならぬ軍事教練……
東京のマンションで一人住

会場は三十畳の大広間。川
の字型に並べられたテーブル



つかんばかりの狭いところで

御馳走と思つて……云々」と

轉（さえず）り合ひも姦（か）しましく、時の過ぎるものもつい忘れ、定刻を過ぎてても誰れ一人、席を立つ者もない有様でした。まだまだ語り尽くせぬままに、とうとう閉会となりました。

遠近を問わず、お集り頂いた恩師、会場提供に御配慮下さった関高校の諸先生に、心から御礼を申し上げます。

尚、友情の掛橋となつて、御世話下さった方々、本当に有難うございました。心の底から喜びと思い出を噛みしめ乍ら、再会を希いつつ筆を置きます。

